

# 天草 (あまくさ)

登録番号：第4596号

登録年月日：平成7年8月17日

登録者：農林水産省果樹試験場  
(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：奥代直己 生山 巖 松本亮司  
村田広野 浅田健介 山本雅史

池宮秀和 山田彬雄 小泉銘冊

岩波 徹 吉永勝一

来歴：(「清見」×「興津早生」)と  
「ページ」の交雑実生

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は中程度である。樹冠の拡大はやや遅い。若木時代はやや直立し、結果期には開張する。枝葉はウンシュウミカンよりやや密生する。枝梢はやや細く、長さは中位で、ウンシュウミカンより短い。徒長枝に短いとげを発生するが、樹勢が落ち着けばなくなる。葉の大きさは中位でウンシュウミカンに比べてやや小さく、披針形である。葉の厚さはウンシュウミカンよりやや薄い。結果期に入るのが早く、結果性は良好、しかも連年結果する。果実生産能力はウンシュウミカン程度と思われる。樹体の耐寒性は中～強である。

夏秋季に土壤乾燥が激しい場合に、降雨による裂果が認められるので、糖度を下げないように留意した適切な水分管理が必要である。

また、「天草」は果皮が平滑、赤橙色で外観美麗なところの一つの特徴がある。果実は陽光面が退色しやすいので、袋掛け等の防止対策を行う必要がある。「天草」の特徴を発揮するには糖度12度を目途とし、露地栽培では1月下旬採取の完熟果で、大きさも200g以上にならないようにしたい。

### ■果実特性

花は単生で、大きさはウンシュウミカンより小さく、中位で、白色5弁。花粉は形成され、稔性がある。単為結果性が強く、果実は通常無核になる。自家受粉により種子が形成される。胚色は白と淡緑の混合で多胚。果実の大きさは200g程度で、玉揃いは良好である。果頂部には小さなヘソが形成されやすい。果皮の色は淡赤橙で濃い。果面は平滑で、薄く、浮皮は認められない。油胞はやや大きく、分布はやや粗である。剥皮は容易であるが、ウンシュウミカンよりやや困難である。

果肉の色は橙色でウンシュウミカンより淡く、「清見」程度である。肉質は柔軟多汁である。じょうのう膜は薄く、適熟期の果汁糖度は11～12度、酸は1.0%程度で甘酸相和して美味である。熟期は12月下旬～1月下旬で、減酸の地域差が認められる。

### ■病害抵抗性

かいよう病抵抗性は、ウンシュウミカン程度かやや弱い。そうか病は、圃場での発生は認められないが、接種試験では、発生度はウンシュウミカン程度かやや大である。

ウンシュウミカンに準じた防除で十分対応できると考えられる。トリステザウイルスに対しては、軽～中程度のステムピッチングが認められているが、樹勢低下、小玉果など栽培上の問題にはなっていない。

### ■地域適応性

生育期に強風が少なく、温暖な地域に適する。生育期の強風によりかいよう病が発生しやすいので、台風あるいは季節風を受けにくい地形の園地に植栽し、防風対策が肝要である。

開花期が遅く、かつ秋季の気温が低い地域では減酸が進まず、厳寒期前の収穫、出荷が不可能になる。できる限り温暖地を選んで栽培する方がよい。

現在、大分県、愛媛県等では年内出荷のための無加温の施設栽培が始められている。

(松本亮司)